

令和5年度第1回大和町総合教育会議 議事録

1 開催日時 令和6年2月26日（月） 午前11時05分から午後0時10分

2 開催場所 役場庁舎201会議室

3 議 題

（1） 令和6年度の教育分野における主な事業について

（2） その他

4 出席者

浅野町長、上野教育長、鎌田教育長職務代理者、若生委員、木皿委員、
大内委員

5 会議に出席した事務局職員

千葉総務課長、遠藤教育総務課長、瀬戸生涯学習課長、村田公民館長、
青木教育総務課参事、大友総務課長補佐

6 傍聴者 なし

7 会議の概要 以下のとおり

開 会

総務課長：それでは定刻となりましたので、令和5年度第1回大和町総合教育会議を開会させていただきます。はじめに、本日の会議は、大和町総合教育会議運営要綱第4条により、原則公開することとなっておりますのでご了承願います。それでは、開会にあたりまして、浅野町長から挨拶を申し上げます。

開会挨拶

町長：本日は大変お忙しい中、大和町総合教育会議にお集まりいただき御礼を申し上げます。日頃より当町の教育行政の推進に対し格別のご尽力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、総合教育会議は、町長である私と教育委員の皆様とが十分な意思疎通を図

り、地域の教育課題などを共有するため実施するものであり、こうして直接委員の皆様と意見交換のできる貴重な機会と捉えております。

この総合教育会議につきましては、会議運営要綱により進めさせていただきますが、本日の議題は「令和6年度の教育分野における主な事業について」ということです。要綱では町長が議長となって進めることとなっておりますが、意見交換ということから総務課長が進行して進めさせていただきますので、よろしくお願いします。

総務課長：それでは、先ほど町長からもありましたが、意見交換ということで私の方で進行役を務めさせていただきます。

次第3の議題、令和6年度の教育分野における主な事業について、資料に基づきまして1ページから、それぞれの担当事業につきまして、教育総務課長、生涯学習課長、公民館長から説明をさせていただきます。

議 題

(1) 令和6年度の教育分野における主な事業について

教育総務課長（資料に基づき説明）

生涯学習課長（資料に基づき説明）

公民館長（資料に基づき説明）

総務課長：以上が、令和6年度の教育分野における主な事業となります。引き続き意見交換に移らせていただきます。この総合教育会議は、町長と教育委員会という執行機関同士の幅広く自由な意見交換を行う協議調整の場と位置付けられております。皆様からの自由なご意見、ご質問等をお願いします。

大内委員：不登校対策について、先ほどの教育委員会でも説明を受けたが、不登校となった子どもたちの居場所について、ケアハウス事業が実施されている。行きやすい環境を含めて、拡充をお願いしたい。義務教育であれば、学校の先生方がいろいろ対応すると思うが、高校生になると学校にいけない子供は、引きこもりなどの社会問題にもなっていく。学校に行けるきっかけづくりとしても、ケアハウス事業に期待しているので、拡充も含めて検討願いたい。

浅野町長：不登校児童生徒が増えてきているなか、全国的に見れば公立の学校だけが学びの場ではなく、民間の団体が子どもたちの特性を活かした学びの場を提供しているということを伺っている。そうしたなかで、学校にもともと行けないお子さんを学校の側に置くというのは、なかなか通いづらいというところもあるのではないかと。来年度以降、フリースクール等への支援を含めて検討をしていくべき時代だと認識している。今後、拡充を含めて、担当課と意見交換をしながら、先進地の確認を含め研究していく。

鎌田代理：大和中学校生の完全不登校が3名いる。学校の教員は、日常業務で手一杯である。教員の働く時間も限られているので、教員以外の周りのサポートが大事であると思う。大和町から完全不登校児童が一人でも二人でもいなくなれば、町民の大和町に対する見方も変わってくると思うので、よろしくお願いします。

木皿委員：不登校児は外と接触することを拒絶しているが、それを表に出すきっかけをどうするのが問題である。先生が話しかけても動かない、家庭で話しかけても動かないという時に、誰がどのようにして動かすのか、どのように解決していくのか疑問である。

浅野町長：どのようなことに興味を持ってもらえるのか理解し、その子の目線で会話できる人がいないと難しい。まずは外に出てきてもらうことが一番である。学校の先生だけでは対応できない部分が確かにあると思う。そのような中、教育委員会で動いていることはあるか。

教育総務課長：コミセンの3階で心の支援事業を実施している。小中学生が一緒にということで居場所づくりを行っている。小学生はどちらかというと賑やかで、中学生は静かな環境で勉強をしている。その意味では、スペースが不足していると感じるので、コミセンの2階の会議室を通年で借りれないかなど調整をしている。

大内委員：スクールソーシャルワーカーの配置を含めて努力しているが、やはり人手の問題もあると思う。体制的には予算的な支援が必要である。

浅野町長：定年退職された経験豊富な教員OBの力を借りるような仕組みなどを考える必要もある。細かく完全不登校の子どもたちと向き合ってもらい、専任で対応してもらいようなことを検討していきたい。

私からも皆様のご意見をお聞きしたいことがある。台湾の半導体企業が進出してくることについて、九州の熊本県菊陽町に視察に行った。教育熱心でグローバル教育に長けている台湾人のご子息の来日が予想される。バカロレアを取得できる、

将来的にアメリカやヨーロッパの大学に編入できるような英語教育を中心としてインターナショナルスクールに通われる方が多いということである。一方で、公立の小中学校に通う子どももでてきているようである。大和町の小中学校での受け入れの準備を検討していかなければならないなかで、皆様の視点からご意見をいただきたいということと、町長として台湾の方に移住先として来ていただけるように、インターナショナルスクールと交渉をしている。併せて、インターナショナルスクールには中等部、高等部のない学校があり、町で廃校となっている校舎をそこに活用できないか働きかけを行っている。また、成人教育の一環となるかもしれないが、飲食店向けの中国語の勉強会もいずれ必要となると思われる。英語、中国語など私たちが国際化に向けた準備をしていかなければいけないという視点を持っていたきながら、今後の学校運営、様々な事業運営についてご意見をいただきたい。

木皿委員：周りを見てみると、英語に力を入れたい親御さんは泉区の幼稚園に通わせ、小学校もそちらの近くに通わせる方が多いようである。そちらに流れないようにするにはどのようにすればよいか、また、大和町内で実施した場合に運営、経営といった面から大丈夫なのか、どこに焦点を当てて実施していくのか考える必要がある。外国人が来たときはどうするかという問題もある。

浅野町長：受け入れ準備は、しなくてははいけない。

木皿委員：吉岡小学校で、3名ほど日本語教育を受けている児童がいて聞いている。どのようにそれを拡充し充実させていくかということになる。

浅野町長：そこで、差別があっては困る。人と人として一つの輪になって欲しいと思うなか学校側、教育委員会としても心構えが必要と考える。

大内委員：制度的なことは教育委員会で話しをしていけば良いと思うが、受け皿となる学校への補助をどうするのかということもある。町長からの話題に対してではないが、小規模校のあり方も含めて、いろいろな受け入れの手法がある。昔からの地域と学校の問題、小規模校の問題を含めて、総合的に外国人の受け入れを検討する必要がある。また、親御さんが何を求めているかというニーズの把握をしなければいけないし、今いる子どもたちの教育環境を壊していいという訳でもないの、その中で、選択肢を決めて、ここまでは大和町で出来ますよ、それ以外は仙台市で、となる気がする。

浅野町長：非常に面白い視点で話しをいただいた。小規模校の特色をどのように出していくのか、という一つの考え方にも成りうると感じた。落合小学校は、特認校と

して学区を外して、住んでいる所に限らず通える学校となっているが、親御さんが送り迎えするなど通える環境が必要となり、他の学区から通われる子どもが少ないのも事実である。学校の特色をどう活かしていくのかという話しに繋がっていく気がする。

鎌田代理：住民登録されるならば、どこかの学校に通わせなければならないので、その準備をしなければいけないが、全ての学校で対応は難しいので、一つの学校に集中させ、通うのが大変であればスクールバスの運行などの活用を検討する必要がある。また、全ての学年での対応も難しければ、低、中、高のクラスに分けて、日本語ができることを前提として、日本の学校教育の活動の中で対応する方法もあるのではないかな。

大内委員：ある程度方針を決めないと、中国語の話せる人の配置も必要となってくる。

英語だけであれば何とかかなと思うが、それ以外の言語となると予算だけではなく、人の確保も含め難しくなる。

浅野町長：全校に準備するのは難しいと話しを聞いて感じたところである。一方で、グローバルに世界中をマーケットに活躍している企業が集積していくなか、グローバルな人材を育成して、その企業に地元から雇用してもらうような環境ができれば良いとの思いがある。やる気がある子どもについては、親の収入に関係なく試験などに挑戦してもらいたいとの思いで、各種検定の助成事業を来年度から実施することとした。目標を立ててどんどん達成してもらい、将来の就職に役立ててもらいたい。そして、やる気を持ってもらうために、企業からの出前講座というような、企業を知ってもらうような機会を授業で取り入れてもらいたい。

鎌田代理：各学校の学校だよりを拝見すると、企業に来ていただいて出前講座をある程度はやっているようだが、それがどれくらい積極的な働きかけになっているかは分からない。しかし、現在地元にある企業を知ることはとても良いことだと思う。

浅野町長：企業と会う機会が多いなかで、皆さん感じているのが、早い段階から自分たちの会社を知ってもらうことが大事であると考えている。学校側が許すのであれば、積極的に授業に取り入れていただきたいと考えている企業が増えているようである。

鎌田代理：中学校の職場体験など、学校を応援する形で町当局からの紹介があると、学校も助かると思う。学校の教員だけで職場を探すのは大変なので、町当局が間に入っていただければスムーズに進むと思う。

木皿委員：私も小学校から呼ばれて、出前講座を行ったことがあるが、将来を考えている子どもは興味を持って質問してくる。学校の授業に組み込むのに、どのくらいの余裕があるのかは分からないが、良いことだと思う。それから、町長が話されたなかで一つ整理したいのは、地元の子どもたちに英語を学ばせたいからインターナショナルスクールを誘致したいということか。

浅野町長：そうではなく、台湾の父兄の方が望まれているという理由である。

若生委員：先日テレビで拝見したが、飲食店の方は自ら進んで中国語など学んでいるようである。お客さんへの対応が必要なためである。ただ、企業がくることによって、道路が拡張され、田畑など土地が無くなり農家などは収入が減ってしまったというような話を聞いたので、地元の方が理解できるような学校づくりができれば良いと思う。

鎌田代理：社会教育の関係で、レクリエーション広場管理があるが、宮床のレクリエーション広場のグラウンドに草が生えており使用できないことがあった。グラウンドの整備をお願いしたい。

生涯学習課長：レクリエーション広場については、各地区に管理をお願いしている。できるだけ整備をしていただくように話しをしておく。

総務課長：それでは議題の部分につきましては以上とさせていただきます。皆様、ご意見大変ありがとうございました。それではこれで会議を閉じさせていただきます。閉会の挨拶を上野教育長から申し上げます。

教育長：本日の総合教育会議の開催、大変ありがとうございました。初めての町長と教育委員との話し合いということで、様々なことや様々な視点から話題の多い話しができました。今後、整理すべきことは整理していきたいと思いますが、初めての話し合いは本当に良かったと考えております。町当局からは、教育委員会に対して様々な形でご支援をいただいておりますが、新しい年度を迎えますが、今後もお支援をよろしくお願い申し上げ閉会の挨拶といたします。本日は、大変ありがとうございました。

総務課長：以上をもちまして、令和5年度第1回大和町総合教育会議を終了させていただきます。大変ありがとうございました。